

⑬ 御歌碑(みうたひ) 1940年12月



【皇太后宮御歌】

「つれづれの友となりても慰めよ
ゆくことかたき我にかはりて」
皇太后宮大夫 大谷正男 謹書

この碑には、1932年11月10日貞明皇后(昭和天皇の母君)が大宮御所での御歌会で詠まれた御歌が刻まれており、当時このような御歌が詠まれたことは、日本のハンセン病の歴史上では画期的なことであつたとされています。初代天皇の神武天皇即位を元年(紀元)とする皇紀2千6百年の記念事業として、是非この歌碑を建立しようと「京都・大阪・兵庫・奈良・三重・滋賀・岐阜・福井・石川・富山・鳥取・和歌山」の各府県管下の女子中等学校及び専門学校360校に呼びかけ、賛同いただいた171校の学生生徒有志から寄贈されました。

この碑に使われている石は、高さ12尺、幅6尺、厚さ2尺の讃岐庵治(香川県)の自然石となっています。